

ケータイがパカパカしたので、更新しました。

そもそもそれまでは、2017年の7月号でご報告した通り、AndroidのZenFone3 (ZE552KL)を使っていたわけです。これ、背面にガラスのカバーがかかっており、両面ともガラスでツルツルという仕上げ。今までにコンクリなどの硬い床に数回落としましたが、全面ガラスはびくともせず、ヒビ一つはいていません。これに対し、裏側のガラスはそこまで強くないのか、ぴっという分割線が数本走っている状態です。

そうして2年半ぐらい使ってきたわけですが、この年末ぐらいに裏側の隙間が気になるようになってきました。どうみてもバッテリーが膨張しており、その圧力に裏側カバーが耐えきれず、ガラスの割れ目で折れ曲がって、隙間ができたようなのです。こ

んなの、放置しとけば故障まっしぐらじゃないですか。というわけで、やむなくケータイの更新を狙ったわけです。

前回の記事でも触れたとおり、そもそもガラケーで使っていた、microSIMを流用して電話に使い、データ通信の方はIijmioのnanoSIMを使う構成です。Zenfone3のDSDS (Dual SIM Dual Stand-by) を利用したわけですね。通話の方はFOMAのケッチケチプランで、基本料金がひとりでも割50で50%割引の743円、これにiモード、SPモード、留守録とユニバーサルサービス料がISPセット割つけて583円と、合わせて1,326円税抜がベース料金、これに通話料が乗っかる形です。通信についてはこちらのSIMでは1ビットたりとも送受信しないため、基本はゼロ円。パケ・ホーダイダブル/シンプルなので、使わな

ければ利用料はゼロ。まあ電話はするので、全体としては税込2,000円ぐらいという維持費になってました。一方で、現在提供されているギガライトでは、1GBまでしか使えないのに月額2,980円となっております。仮に現在Iijmioで使ってる5GB程度の通信も賄うとすると、月額4,980円。一方でIijmioのファミリーシェアプランは月額2,560円をSIM3枚でシェアしているので、等分すれば4GBが853円。この仕組みに切り替えてから3年経ちましたが、まだまだDSDS運用の方が安価なようです。

さて、というわけで裏蓋がパカパカするZenfone3の代替機種を選ばなければならぬわけですが、最低限DSDSをクリアする必要があります。でまあ、microSIMが使えれば手間がないわけではありますが、世の中そんなに甘くはない。流石に最近の

One Point BUZZ WORD

FOMA の nanoSIM

2020年1月18日の土曜日。前日深夜にZenfone6を発注したため、docomoのSIMをnanoSIMに変更する必要がありました。暇だから、機材が届く前に交換しておくかと思い、川越西口、交番の向かいにあるドコモショップ川越店に、夕方までかけて行ったわけです。入り口の人にmicroSIMをnanoSIMに変更したいと伝えたところ、予約が入ってるので90分待ちだとのこと。暇なので構わない旨答えたところ、アンケートに記入しろという。SIM交換に必須ではないようなのでそちらは放置。また、別にプギーボードが渡され、名前と契約している電話番号、生年月日を記入せよという。プギーボードなので記録が残らないというわけか。以前来たときは紙に書かされたが、ちょっとは進歩したようだ。ただ、使用目的を伝えず、ただ書けっただけは感心でき

なかったぞ。個人情報保護、しっかりしような。

でまあスマホを見ながら時間を潰してたわけですが、15分ぐらいしたら「雨のせいか時間になっても予約の方が来ないので、どうぞ」と言われ、窓口に向かう。担当の女性の方は開口一番こう言った。「FOMAのnanoSIMはスマホで使えませんよ」ええっ!? 衝撃の発言!! ネットにあんだけ実例転がってるのに、第一Zenfone6は対応してるし...「そもそも、FOMAのnanoSIMは●存在しません●」「えっ、ないんですか?」「ないです。nanoSIMはXiに交換するしかありません」「ふえー...」FOMAからXiに交換する際、一回だけクーポンが使えます。当店では、これで最大99,000円引で端末を販売します。さあ、交換しますか? とか、吠えまくる。初めてスマホ勢と舐められてる模様。その場は「検討します」で退散した。で翌週、ドコモショップグレートシティ大崎店では、存在しないはずのFOMA対応nanoSIMに、何の躊躇も問題もなく、さくっと交換してくれた、というわけ。キャンペーンだもん、売りたいよね川越店。でもウソはいかんのじゃないかな、ウソは?

機種は両方とも nanoSIM じゃないと入らないようになってきました。あとは FOMA の電波に対応しているかが問題となるわけです。ここで一つ冒険に出てみるというのも手ではあるのですが、そもそもがパカパカな裏蓋をなんとかしたいというのが強いので、そこまで値が張るのもちょっとね、というのが正直なところなんです。だから FOMA でケチケチにしてるわけですし。かといって、中古の方はバッテリーの持ちがちょっと心配。

その時、ひらめきました。そういえば iijmio は音声サービスもやってる。であれば端末も売ってるはず。で見ると、端末販売もしている上に、割賦販売もしているじゃないですか。多少の金利に目をつむると、毎月 1/24 ぐらいの負担で使えるわけです。で、現在取り扱ってる端末で、Zenfone3 よりましなスペックのものを探してみます。まず DSDS 対応という時点でごっそり消え、次にカメラスペックが 1,600 万画素以上とすることで、Huawei Nova 5T、Asus Zenfone6、Oppo Reno 10x Zoom の 3 機種しか残りません。いずれもカタログスペックは 4,800 万画素ですが、値段は Nova 5T、Zenfone6、Reno の順です。結局は同じ Asus であること、値段もそこそお手軽であることなどから、Zenfone6 の 6GB 版を選びました。一括で 64,800 円、24 回払いで 2,750 円、いずれも税抜です。金利分が 50 円。

メインメモリ 8GB、ストレージ 256GB の上位版もあってちょっと心が揺れたのですが、256GB で足りなくなったときがちょっと心配なのと、差額 600 円にビビって 6GB/128GB の方にしちゃいました。これの吉凶はそのうち分かることでしょう。いずれにしろ、ストレージが足りなくなっ

ても、256GB なストレージの機種が入手可能である、という状況なので、行き詰まり感はなく済みそうです。

サイトでポチっとしたのが 1 月 18 日の 2 時。同日 10 時には本人確認が完了、3 日後の 1 月 21 日 6 時に発送確認のメールが届き、翌 1 月 22 日に到着予定。残念ながら受け取りできなかったため、近所のコンビニに再配送してもらって、1 月 23 日の 23 時に無事端末を受け取ることができました。翌 1 月 24 日に端末をかばんに忍ばせ、会社でセットアップします。

さて、ここで約 40GB のデータをどうやって移動するかが気がかりでした。まずは gmail 関係のアカウントの ID/pass をリストアップして、両腕振り回して入力する気まんまんだったものの、実際には「データのコピー」と「ASUS Data Transfer」により、小一時間ほけっと待ってるだけほぼほぼ環境がそっくりコピーされてしまいました。年寄りにはびっくりの手軽さです。さすがに IMAP でアクセスしていたメールアカウント等はコピーされていなかったものの、有効な wifi 接続情報や、パスワードとか日本語入力とかの履歴も再現されて、ちょっと寒気がするぐらい。こうしてあまりにあっけなくデータがコピーできたため、開封して数時間もするとブラウザとして問題なく使えるようになってしまいました。さすが 21 世紀だ。数千枚の写真も何の問題もなくコピーされていました。

さて、後は microSIM を nanoSIM に切り替えるだけです。あらかじめ docomo のサイトで SIM のサイズを変更する際の注意点を確認 (https://www.nttdocomo.co.jp/support/simcard_other/) し、念の為プリントアウトして大崎の docomo ショップに向かったところ、予約でいっぱいだから 17 時に出直せとのお達し。仕方なく

その場合は昼飯を食って会社に戻り、時間を潰して再び 17 時に出頭。その場で裏蓋パカパカな Zenfone3 から microSIM を抜き出して、Zenfone6 を起動して技適マークを確認し、さらに SIM トレイを抜き出して nanoSIM でなければ入らないことを確認した上で、ものの 5 分とかからず nanoSIM を渡してくれました。さすが東京は違うよね。川越くんだりとは大違いだね。

SIM1 に docomo を、SIM2 に IIJmio を入れて、それぞれ設定しますが、残念ながら SIM1 をうまく認識しません。ちょっと冷や汗が吹き出しましたが、念の為電源を切って再起動してみたところ、無事 SIM を認識、docomo 回線に接続できました。試しに 117 にかけて時報が鳴るのを確認、別のケータイから電話かけてみてつながることも確認。これで無事裏蓋パカパカな環境から、新品スマホへ乗り換えることができました。Zenfone3 のころは IIJmio の APN を手打ちしたような気がしますが、今回は刺すだけできちんと認識していました。まあ、IIJmio から買ったんだから、そうであって欲しいですが。

Zenfone6 にはプラスチックの薄いケースが付属してました。まあ前面ガラスが割れないにしても、落として角が地面にあたって、金属部分がえぐれたり凹んだりするというのはよくあることなので、ケースで緩和されることを期待したいと思います。そもそもそこまで重くないのは良いことです。

まだ使い始めて数日ではありますが、とりあえずは満足しております。ただし 4,800 万画素だと HDR で撮影できないっていうのはちょっと誤算でしたけどね。頼みますわ。

Hiroyasu Sakaguchi
株式会社 IMAGICA Lab.